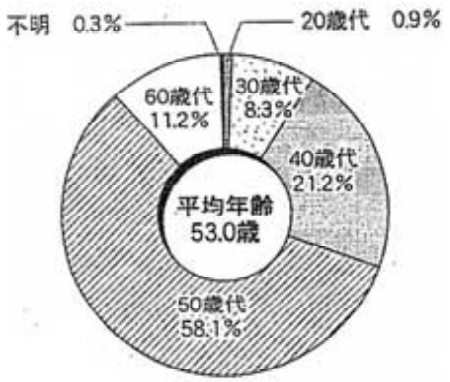
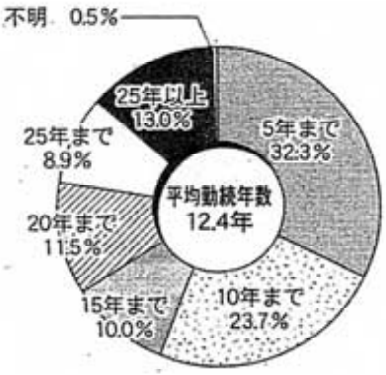
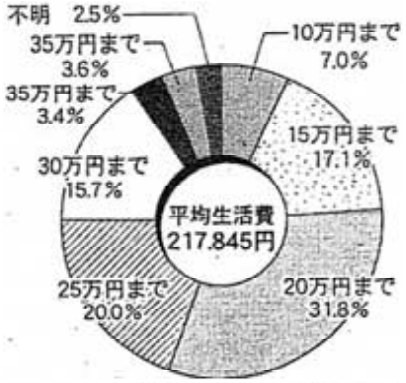
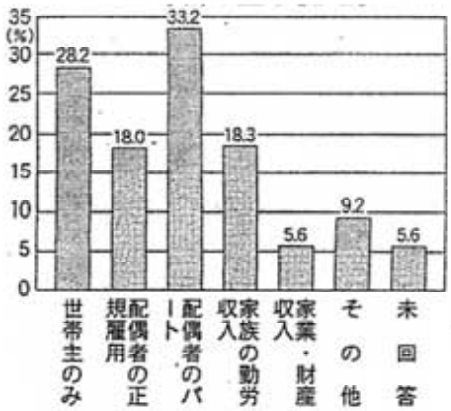
規制緩和下で「生活・老後不安」さらに拡大
全自交労連２００５春闘、生活・労働実態調査

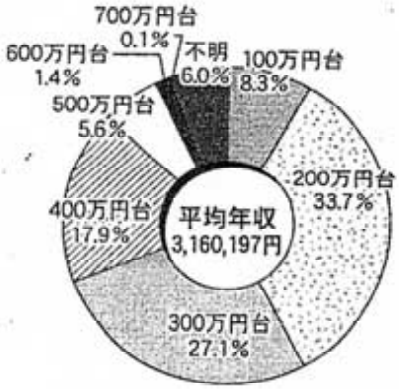
2005 年春闘、生活・労働実態調査
グラフ分析：全自交労連の「２００５春闘、生活・労働実態調査」によると、規制緩和による供給過剰の一層の深刻化と低運賃競争を反映して平均年収は昨年よりさらに低下し、３１６万円となる厳しい実態が改めて浮き彫りになっています。社会保障の後退と相まって「老後の生活に不安を感じている」人は９割に達しています。

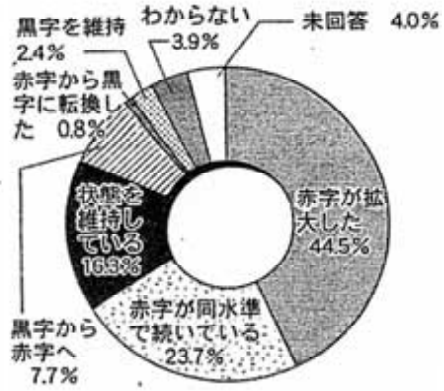


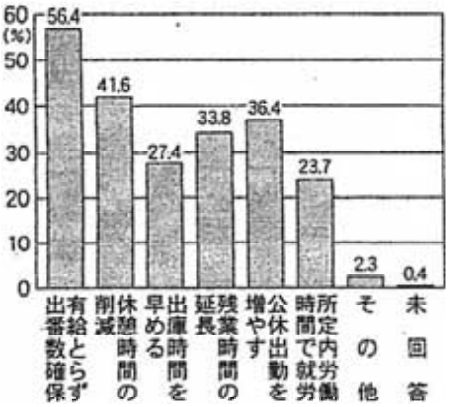


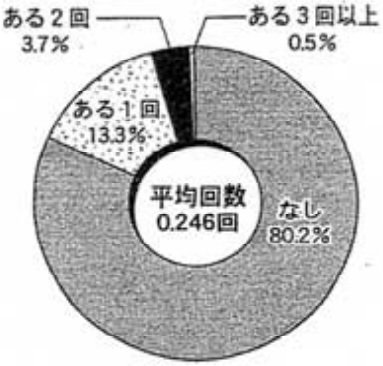


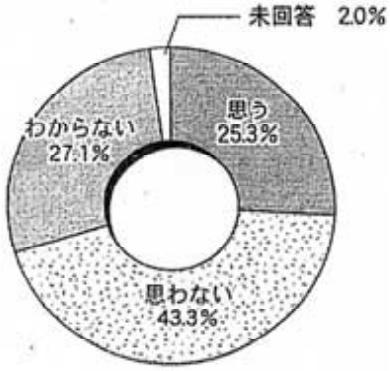


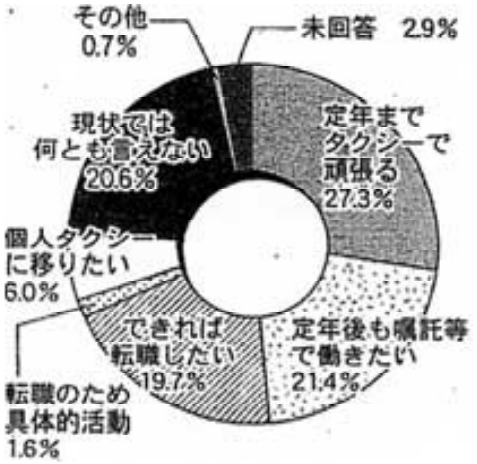




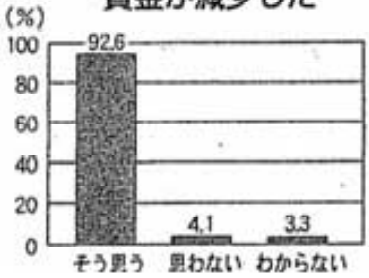




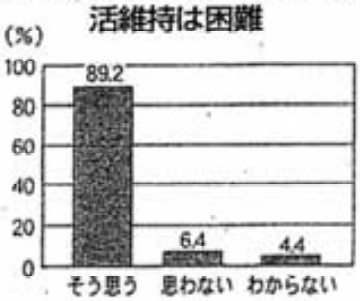




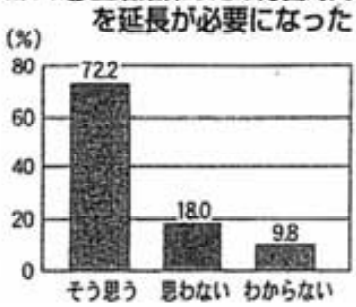
Q11①運送収入が低下し、賃金が減少した



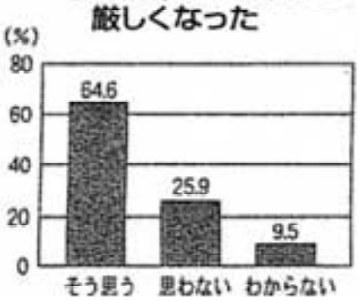
Q11②今の賃金水準では生活維持は困難



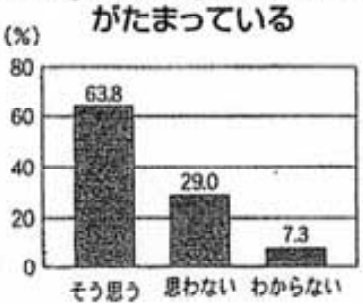
Q11③生活確保のため労働時間を延長が必要になった



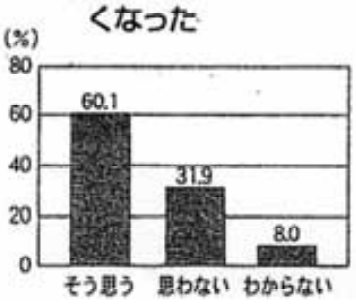
Q11④以前より労務管理が厳しくなった



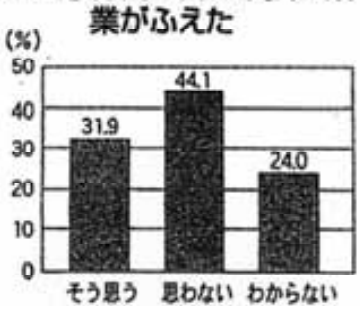
Q11⑤ノルマ等でストレスがたまっている



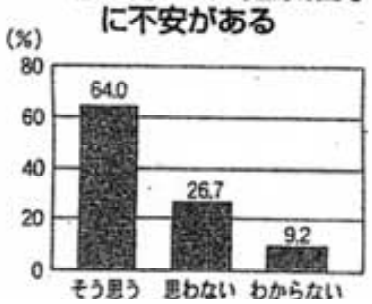
Q11⑥有給休暇がとりにくくなった



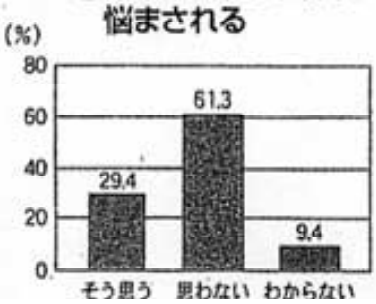
Q11⑦仲間を含め不払い残業がふえた



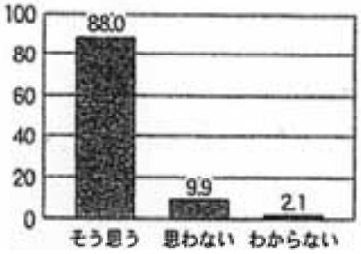
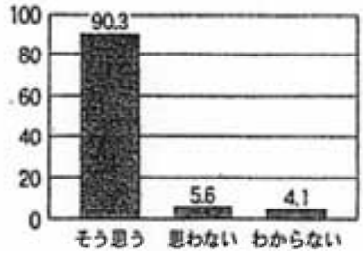
Q11⑧過労により健康維持に不安がある



Q11⑨乗客とのトラブルに悩まされる



Q11⑩接客態度に気を遣っている



Q11⑪老後の生活に不安を感じている